

道徳科学習指導案

令和4年11月24日(木) 第5校時 第2学年2組(1年3組教室)

【主 題】 ひとりひとりをたいせつに(内容項目「公正, 公平, 社会正義」) 『のこぎり山の犬ぶつ』

考察	道徳的価値についての理解 (学習活動)	自己の生き方についての考え (学習活動)	道徳性(育成を目指す資質・能力) (道徳的判断力, 道徳的心情, 道徳的实践意欲と態度)
育成を目指す 資質 能力	<ul style="list-style-type: none"> 好き嫌いにとらわれず, 誰に対しても態度を変えないで接することで, 自分も相手も気持ちよく過ごせることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験や教材文を基に, 友達との関わり方を自己と照らし合わせながら, 誰に対しても態度を変えないで接することの難しさについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 好き嫌いにとらわれず誰に対しても公正, 公平な態度で接していく道徳的实践意欲と態度を養う。
児童の 実態	<ul style="list-style-type: none"> 誰に対しても態度を変えないで接しようとしているが, 自己中心的な考え方をすることがあり, 異なる考え方や感じ方を受け入れるよさは理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段から交流のある友達との関わり方は考えられているが, あまり話したことがない友達との関わり方は考えられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手のことよりも自分のことを優先して考えてしまうことがあり, 誰に対しても, 好き嫌いなく接する道徳的心情はもてていない
価値	<ul style="list-style-type: none"> 誰に対しても公正・公平な態度で接することは, 相手のことを考え, 人と関わっていく上で大切なことである。しかし, 低学年の子どもは, 自己の利害にとらわれず, 相手と接することは難しい。そういった中でも, 相手のことを受け入れようと努力することはできる。本教材では, 長い距離を歩くことが苦手なあかりさんへ心無い態度をとってしまったぼくの行動と自身の行動を照らして考える中で, 誰に対しても態度を変えないで接することの難しさについての問題意識をもつことができる。そして, 子どもは, 学習課題を解決する中で, 誰に対しても態度を変えないで接することで交友関係が広がったり, 深まったりすることに気付き, 好き嫌いにとらわれず誰に対しても公正, 公平な態度で接していく道徳的实践意欲と態度を養えるようになる。 		
見方・考え方	誰に対しても態度を変えないで接することの難しさを, 自己との関わりで多面的・多角的に捉え, これからの自己の生き方について考えること。		
今後の学習	3年「お日さまの心で」で, 誰にでも同じように態度を変えずに接するためには何が必要かについて考え, 人との関わり方について考えていく学習へと発展していく。		
他の教育活動 との関連	<ul style="list-style-type: none"> 人との付き合い方を考えることについて 例: 授業内外で友達と会話をする場面, 授業でのペアやグループ活動の場面, オリエンテーリングや校外学習でのグループ活動 		

本時の学習（1／1時間目）

ねらい 課題「すききらいはなんであるのだろう」について話し合うことを通して、交友関係が、広がったり、深まったりすることに気付き、誰に対しても態度を変えないで接していこうとする道徳的心情を養う。

評価の視点 課題「すききらいはなんであるのだろう」について、教材の状況や生活経験を基に、多面的・多角的に考えたことを発言したり、記述したりし
 <発言・学習プリント>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 教材を読み、課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんかいやなことが起きているな。でも歩くのがにがてな子といっしょのグループになるといやだな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・すききらいはだめだとわかっているけれど、自分から話したり、遊んだりすることはできてないな。 （課題意識） </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○友達との違いから態度を変えてしまう理由についての問題意識をもてるよう、教材「のこぎり山の大ぶつ」の範読後、えんそくで起きたことを問いかける ○課題「すききらいはどうしてあるのだろう」への方向付けができるよう、アンケート「だれとでもなかよくしているか」を実施し、結果を基に、本時で考えていきたいことを問いかける。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 課題：すききらいはなんであるのだろう </div>	
<p>2 課題の解決に向けて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、「じぶん」だと思うな。自分が相手の悪いところばかりを見てしまって、決めつけてしまうからだと思うな。 ・じぶんとまわりのみんなと書いている友達がいるな。なんでまわりのみんななんだろう。理由を聞きたいな。 ・みんながいやだと言っているからと言っていたな。でも、それは、いじめになってしまおうと思うな。 ・なかよくできると言っている人もいるが、どちらとも言えないという人もいるな。ぼくもぜったいにできるかどうかと言われたら自信をもって言えないな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・でも、ぼくから話しかけていこう。そうすれば、きっとまわりのみんなも変わってくれるだろうし、あいてもうれしい気持ちになると思うな。 （課題を解決した意識） </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の生き方を自覚できるよう、「じぶん」「あいて」「まわりのみんな」の中から自分の考えに合うものを選ぶよう促す。 ○自己の生き方が他にもあることに気付けるよう、タブレットで児童の回答を共有し、理由を聞きたい考えに印を付けるよう促す。 ○自己の生き方を問い直し、他の考えを付け足したり、変えたりすることができるよう、話し合う視点「どうして〇〇」を提示し、友達の考えを聞いたり、自己の生き方を伝えたりするよう促す。 ○生き方を考えられているが、自分の内面の弱さに気付けるよう、アンケート「だれとでもなかよくしていけるか」を実施し、結果を見せ、行動の可否を問いかける。 ○すききらいがなくなると「じぶん」「あいて」「まわりのみんな」にとってどんなよさが生まれるか問いかける。
<p>3 課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は、あいてのことをきめつけてばかりだったから、人はみんな違うんだから、それをよいとかわるいとか決めない方がいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の内面弱さと向き合えたことが自覚できるよう、「これからしていききたいこと」の視点を提示し、タブレットに自己の生き方を書くよう促す。